

令和元年度 長崎市自然環境調査報告書：鳥類

長崎市自然環境調査委員 ^{よしがい} 吉谷 ^{まさし} 将史

冒頭、本調査報告にあたり 2005 年(平成 17 年)から 2018 年(平成 30 年)まで 14 年間、自然環境調査員を歴任されておりました菅野聖二氏より、今年度から私が調査を引き継ぐこととなりました。菅野前委員につきましては、私が改めて紹介するまでもないのですが、長年の鳥類調査に関わる功績としてここに簡単に紹介しておきます。

菅野聖二氏は、学生時代(1960 年代)は、日本の鳥類研究に多大な業績を残し、今日も第 1 級の鳥類図鑑として増版を続けている「フィールドガイド 日本の野鳥」を手描けた高野伸二氏に師事し、関東周辺の野鳥を観察され、社会人となられた最初の赴任地である対馬を皮切りに、今日まで 60 年あまり、長崎県の野鳥の観察を続けてこられました。

2010 年(平成 22 年)、第 64 回愛鳥週間全国野鳥保護のつどいにおいて、当時会長であった長崎県野鳥の会が日本鳥類保護連盟会長賞を受賞しています。昨年度をもって、長崎県野鳥の会会長をはじめ、多くの役職を勇退しましたが、今日においても、長崎周辺の野鳥を調査する気概は衰えず、日々活動しておられます。

私自身、菅野氏の志を受け継ぐ者として、長崎市における鳥類の調査研究を通して、自然環境保護事業に貢献できればと思います。

1 平成 31 年～令和元年(2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日) 長崎市自然環境調査報告：鳥類

平成から令和へと時代が変わる時期、長崎市の鳥類における調査委員を引き継ぐこととなり、これまでの経緯をふまえながら私なりに長崎市の鳥類の動向をまとめました。

まず、長崎市において本年観察された野鳥の種数(亜種含む)は209種(前年比-13種)でした。2010 年以降、過去 10 年間の種数の変化について、下記表 1 のとおりです。

・下表 1 長崎市における年別観察種数(亜種含む)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
種数	210	206	212	203	188	220	228	225	221	209
増減		-4	+6	-9	-15	+22	+8	-3	-4	-12

過去 10 年間の平均値は 212 種。年により若干の変動はあるものの、増減はおおむね 1 割以内であることを考えると、長崎市においては単年度で 210 種ほどの野鳥が観察できることがわかります。また、これまでの累計観察種数が 329 種(外来種・検討種を覗く)であることから、単年度で観察できる種は、おおむね 6～7 割であることがうかがい知れます。

次に、月別の観察種を下表2に記します。(単年度ではなく、月別累計観察種)

・下表2 長崎市における月別観察種数(単年度ではなく、累計観察種からの統計)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
種数	141	141	185	249	233	112	95	102	170	197	168	136

下表1での単年度の記録に対して、月別の観察種については過去 40 年あまりの記録を集計したものですので、長崎市でこれまでに観察されている 329 種(外来種・検討種覗く)の内訳ということになります。12 月～2 月にかけては野鳥の移動はあまりなく、3 月より春の渡りが本格化し、ピーク時の 4 月には 250 種近くが長崎市において観察されています。ほぼ春の渡りが見られなくなる 6 月には、4～5 月の半数となり、夏鳥が極めて少ない長崎市においては、7 月に観察できる野鳥は 100 種に達しません。春のピークである 4 月 249 種に比べ、秋のピークは 10 月 197 種。これは、春の渡りのルートがフィリピン、台湾、日本の南西諸島を経て東シナ海沿いの島嶼を経由し、日本各地、朝鮮半島、中国、内蒙古、遠くはシベリアまで渡る野鳥が、長崎市の先端に位置する長崎半島を休息地とするためです。特に野母崎地区においては、日本列島の最西端に位置し、日本では繁殖しない大陸に分布する野鳥が多数見られる貴重な地域資源です。秋の渡りにおいては、大陸で繁殖する野鳥の多くが、海洋を越えず、中国大陸東岸の海岸線沿いを移動するため、春に比べ観察種が減るものと考えています。秋は特にスズメ目に属する小鳥などは、大陸沿いを移動するケースが多いようです。これは、夏に生まれた若鳥が多いのも、陸沿いの安全なルートを選択する要因なのかもしれません。

次に候鳥区分について長崎市と全国の違いについて、下表3に記します。

候鳥区分については、()内の例は長崎市における区分

- ①「留鳥」、周年を通して観察できる(スズメ、ハシボソガラス、シジュウカラなど)。
- ②「夏鳥」、夏に繁殖のため渡来する(ホトトギス、オオルリなど)。
- ③「冬鳥」、越冬のため冬場に見られる(オシドリ、ジョウビタキ、アオジなど)
(アオジについては、九州では冬鳥、関東以北では夏鳥、全国の区分としては留鳥に含みます。)
- ④「旅鳥」、繁殖地と越冬地への移動中、休息地として一時的に滞在する(コマドリ ノジコなど)
- ⑤「迷鳥」、本来日本では見かけない鳥、記録が 10 年に 1 回程度(コグンカンドリなど)

下表3 候鳥区分別、割合

	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥
長崎市	14.6%	3.0%	24.0%	44.1%	14.3%
全国	21.5%	13.7%	23.9%	18.2%	22.8%

注)長崎市の区分については、長崎県野鳥の会の過去の記録をもとに分類。

全国については、「日本の野鳥650(平凡社)」を参考にした。

日本産鳥類目録第7版(2013年8月)によると、国内で観察される野鳥は亜種を含め670種あまり。そのうち長崎市で2019年までに記録されたのは329種。約半数の野鳥が単独市町村単位で観察できることとなります。市町村ごとの観察種については全国的におおむね200種前後が一般的ですので、長崎市においては数多くの野鳥が見られる地域です。

候鳥区分ごとに特徴を見ていくと、

注)種別ごとの野鳥区分については、別添「長崎市鳥類目録」参照。

「留鳥」は長崎市48種(14.6%)、全国135種(21.5%)。長崎市においては全国的に分布するメジロやシジュウカラなどが留鳥であるのに対し、全国では南西諸島にのみ分布するアカヒゲ、中部山岳地域に分布するライチョウ、北海道にのみ生息するシマフクロウやタンチョウなどが含まれるため割合的には低い傾向にあります。

「夏鳥」は長崎市10種(3.0%)、全国86種(13.7%)。長崎市において夏鳥が少ない要因としては、繁殖地に適した標高600mを超える地域がないことが挙げられます。全国的に低山地域での繁殖が確認されているキビタキ。2016年以降、長崎市内での夏場の観察事例も増えており、私自身2019年7月に市民の森において雛鳥を確認しています。現在は旅鳥に位置付けていますが、今後の観察事例を積み上げていくことで夏鳥になる可能性をもっています。

「冬鳥」は長崎市79種(24.0%)、全国150種(23.9%)と割合的にはほぼ同じ。全国との違いとしては、鹿児島県出水市において集団越冬するマナヅルやナベヅル。長崎市においては上空を通過するか、一時的な渡来のため旅鳥に区分しています。カモ類についてオカヨシガモ、ヨシガモなど、冬場に継続して見られることがなくなっている種については、今後の動向により旅鳥へと変わる可能性も秘めています。

「旅鳥」は長崎市145種(44.1%)、全国114種(18.2%)。全国に比してパーセンテージが2倍強、数的には全国の区分種数を上回ります。これは全国の区分では夏鳥であるコマドリ、クロツグミなどのヒタキ科の野鳥の多くが、長崎市では春と秋の渡りの時期に見られる旅鳥であること。また全国的には留鳥とされるケリについて、長崎市では繁殖例はなく、稀に見られる旅鳥に区分しています。また隣県(佐賀県)の県鳥であり、地域的に留鳥として分布するカササギ(諫早市や大村市では留鳥)についても長崎市では周年の記録がなく、繁殖も確認されていないため旅鳥として扱っています。

「迷鳥」は長崎市47種(14.3%)、全国143種(22.8%)と割合的に見ると長崎市は全国を下回る。全国的には迷鳥とされるミヤマヒタキ、ズグロチャキンチョウについて、ここ数年連続して観察されていること、過去の観察事例をふまえ今回、長崎市においては旅鳥と位置付けたことも要因といえます。統計上の数値から旅鳥と迷鳥を合わせた比率は、長崎市が58.4%と全体の6割近くであるのに対し、全国では41.0%と4割余り。双方とも島国である我が国の鳥類相を反映した数

値であることがうかがい知れますが、特に長崎市は旅鳥（渡り鳥）の中継地として、日本国内でも極めて重要な地域であることがわかります。

2 本年新たに記録された野鳥

2019 年新たに追加、観察された野鳥は、以下の 11 種。

・ニシシベリアハクセキレイ

2016 年 4 月（高浜）にて 1 例記録がありますが、検討種としておりました。2018 年 3 月 28 日、同じく高浜地区にて夏羽へと換羽中の個体が観察されており、今回追加。

分布域は西シベリア平原からカスピ海東岸で形態はヨーロッパに広く生息するタイリクハクセキレイ（日本未記録）に近い。



2018 年 03 月 28 日 高浜（吉谷将史）

・イジマムシクイ（2019 年 4 月 8 日）

伊豆諸島やトカラ列島にて繁殖。冬季は南西諸島やフィリピンにて越冬していると考えられているが、詳しいことはわかっていない。環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類（VU）、1975 年、国の天然記念物に指定されている。

主要な繁殖地であった三宅島では 2000 年の噴火により森林の 6 割が失われ、本種への影響も懸念されている。

長崎県では過去に雲仙にて 1 例記録があるのみ。

これまで春の渡り期の飛来が示唆されていたが、画像にて個体確認されたのは今回が初記録。



2019 年 04 月 08 日 樺島（林田博）

・イナバヒタキ（2019 年 4 月 25 日）

中央アジアからトルコ方面で繁殖し、冬はアラビア半島やエチオピア、ソマリアから西アフリカの砂漠地帯に渡り越冬する。

近年は全国各地で迷鳥として、北海道から九州、沖縄まで記録があります。今回長崎市にて観察された個体は、4 月 25 日から 27 日までの 3 日間、野母崎アレガ軍艦島裏の乾燥した海岸付近の草地で観察されました。



2019 年 04 月 26 日 野母崎（吉谷将史）

・キガシラシンド(2019 年 5 月 5 日)

本来の生息地は北アメリカ大陸西海岸。日本では迷鳥として北海道、新潟県、石川県、東京都、大阪府などで記録があり、越冬例もある。

長崎市初記録。



2019 年 05 月 5 日 水仙公園 (伊達木薫)

・バライロムクドリ(2019 年 5 月 15 日)

中国西部や中央アジアの乾燥地帯からヨーロッパ中南部にかけ分布しています。

国内の記録は山形県、東京都、石川県、大阪府、島根県、高知県、熊本県、鹿児島県、沖縄県など全国に広くあるが、稀な迷鳥。

今回の飛来が長崎市での初記録。

ムクドリが長崎市に留鳥として定着したのが、2000 年ころ。近年、ムクドリ科の南方の野鳥の渡りが他にも散見されています。



2019 年 05 月 15 日 水仙公園 (吉谷将史)

・ヒメインビヨ(2019 年 5 月 22 日)

シベリア南部からウスリー地方、中国北東部、朝鮮半島で繁殖し、冬季は中国南部、タイ、マレー半島に渡り越冬する。日本では迷鳥として北海道、秋田県、石川県(舩倉島)、東京都(三宅島)などで記録がある。

今回の長崎市での記録は、野母崎樺島において、野鳥の会会員及び、福岡県在住の野鳥愛好家により鳴き声の確認と視認によるもので、詳細な写真撮影には至らなかった。

・オニアジサシ(2019 年 7 月 5 日)

ヨーロッパ、中央アジア、アフリカ、北アメリカ、オーストラリアなど、南アメリカを除く熱帯から温帯で繁殖する。

日本では、まれな旅鳥または冬鳥として、本州、四国、九州、南西諸島で記録がある。単独での飛来が多い。佐賀県の干拓地など有明海沿岸にはしばしば飛来するが、長崎市の記録は今回が初記録。



2019 年 07 月 5 日 神の島 (大石智榮子)

・アオツラカツオドリ(2019 年 7 月 31 日)

インド洋、太平洋、大西洋の熱帯から亜熱帯の海域に分布。日本では尖閣諸島及び西之島で繁殖する。五島近海など目撃例はこれまでもあるが、長崎市近海にて存在が確認されたのは、今回が初めて。

温暖化の影響なのかは不明だが、南方系の野鳥の出現が近年増加傾向にあるのは確か。



2019 年 07 月 31 日 三重港沖 (小林薫)

・コゲンカンドリ(2019 年 9 月 30 日)

インド洋、太平洋、大西洋の熱帯から亜熱帯の海域に分布。日本では主に太平洋側の沿岸でしばしば目撃される。大型の海鳥で翼長は 185 cm あまり。周辺を飛びまわるトビとほぼ同じ大きさでした。台風シーズンには日本近海にたびたび現れ、平戸や五島列島などでも、秋のタカの渡り観察中に見られることがあります。



2019 年 09 月 30 日 樺島 (吉谷将史)

・シラガホオジロ(2019 年 10 月 31 日)

本来の生息地はユーラシア大陸中部で、東はオホーツク海沿岸、サハリンまで分布し、冬は中央アジア、インド北西部や中国北部、モンゴルなどで越冬する。

日本には数少ない旅鳥もしくは冬鳥として全国に記録があり、特に秋の渡り期には、日本海側の島嶼で毎年観察される。今回、長崎市での記録は初めてだが、旅鳥として通過している可能性もあり、今後も注視したい。

日本で見られるホオジロ類では 17 cm と最も大きい。



2019 年 11 月 1 日 高浜 (峰隆一)

・ロクショウヒタキ(2019 年 11 月 12 日)

本来の生息地は東南アジア。ブータンなどチベットにも生息する。主に留鳥ですが、一部渡りをするものもあり、南西諸島や鹿児島県での観察例が数例あります。

地理的に長崎市への飛来が近年考えられていた野鳥ですが、今回、地元野母崎町在住の方が偶然、見つけました。市民ネットワークの存在あってこそその発見だと思います。



2019 年 11 月 12 日 権現山 (日高富士子)

3 長崎市鳥類目録(2019 年 12 月 31 日改訂)について

本年新たに追加した 11 種に加え、近年の観察記録から以下に挙げる種について候鳥区分の見直しを行った。

・ベニバト

全国的には数少ない旅鳥もしくは冬鳥として本州中部以西で記録がある。南西諸島では毎年記録がある。本来の生息地は、インドから中国南部。長崎市の記録としては、2015 年 6 月、2017 年 4 月、2018 年 5 月、2019 年 6 月と近年は毎年のように観察されていることから、迷鳥から旅鳥とした。



2015 年 6 月 10 日 樺島 (吉谷将史)

・ハイロオウチュウ

全国的には迷鳥として本州、四国、九州、南西諸島で記録がある。本来の生息地はインド、東南アジア、中国南部。

日本への飛来は数年に一度確認される程度だったが、最近では記録が増している。長崎市においても 2010 年 5 月に確認されて以降、2013 年 10 月、2015 年 10 月、2017 年 9 月、2018 年 5 月と過去 10 年間で 5 回記録されている。特に 2017 年 9 月から 10 月にかけては複数個体が確認されており定期的に渡っていると考えられ、迷鳥から旅鳥とした。



2018 年 5 月 3 日 樺島 (吉谷将史)

・カササギ

ユーラシア大陸の中緯度地域に広く分布する。渡りは行わず周年を同じ地域で暮らす。日本には 17 世紀、朝鮮から持ちこまれたものが、佐賀県を中心に九州北部で定着している。

長崎県でも、大村市や諫早市では市街地でも見ることができる。長崎市でも 2000 年以降 6 例の記録があるが、周辺地域からの一時的移動と考えられる。今後定着する可能性もあるが、現時点では旅鳥と判断した。



2016 年 1 月 9 日大村市（吉谷将史）

・アムールムシクイ

日本鳥類目録第 7 版においては検討種のムシクイ類。エゾムシクイと外見が非常に酷似しており、見た目での識別は困難。ロシア沿海州アムール川流域から中国北東部、北朝鮮などで繁殖、冬はミャンマー、タイ北部などで越冬。日本には春の渡り期に日本海側を通過するが記録が少ない。長崎市においては 2014 年以降、毎年鳴き声による確認がなされており 4 月中旬から 5 月はじめに飛来していることがわかってきた。迷鳥から旅鳥に変更。



2017 年 4 月 樺島（野中明彦）

・クロウタドリ

ユーラシア大陸、アフリカ北部に分布。日本にくる個体は中国南部に分布する亜種と考えられる。南西諸島では毎年のように確認されるが、日本本土域では稀な旅鳥。長崎市においては 2005 年に初めて確認され、以降 2008 年、2010 年、2012 年、2013 年、2015 年、2016 年、2017 年と何れも春の渡り期に記録がある。毎年確認できているわけではないが、定期的に飛来しており、迷鳥から旅鳥とした。



2016 年 4 月 12 日 樺島（吉谷将史）

・ミヤマヒタキ

台湾、中国南部などで繁殖し、冬はインドシナ半島などで越冬する。台湾では周年みることできる。日本では男女群島やトカラ列島、南西諸島などで稀に確認される程度。長崎市では2013年の初認以来2016年まで4年連続して確認。2019年にも1個体が確認され、世代交代を経て飛来していると考えられる。全国的には迷鳥扱いだが、長崎市においての定期飛来から今回旅鳥とした。朝鮮半島での記録も増加しており、北に分布域を広げている可能性がある。



2019年4月16日 樺島（吉谷将史）

・キガシラセキレイ

西シベリア低地、ヒマラヤ、モンゴルなどで繁殖し、インドやインドシナ、中国南部で越冬する。日本には数少ない旅鳥として日本海側島嶼での記録が多い。長崎市では2006年、2010年、2012年、2014年、2016年、2017年と記録がある。他のセキレイ科の野鳥同様、数は少ないが定期的に飛来しているものと考えられるため、迷鳥から旅鳥とした。



2017年4月9日 樺島（吉谷将史）

・ズグロチャキンチョウ

イタリアアドリア海沿岸からトルコ、イランで繁殖。冬はインドに渡る。日本では各地で記録があるが、迷鳥もしくは飼育下の籠抜けではないかと考えられてきた。近年、渡り期や冬季に南西諸島での記録が多い。長崎市では2006年、2007年に記録されその後、確認できない年が続くが2015年春に2羽が確認されて以降、2019年まで5年続けて観察されている。2019年11月には今年生まれの幼鳥が確認され、大陸の何処かで繁殖した個体が飛来したと考えられる。定期的な飛来が続いており、迷鳥から旅鳥とした。



2019年11月6日 高浜（吉谷将史）

近年、長崎市に飛来する野鳥を見ていると、南方系の野鳥の飛来が年々増加傾向にあるように思います。一方、日本で繁殖するアカモズ、チゴモズ、シマアオジといった絶滅に瀕した野鳥については渡り途上での確認が年々難しくなっており、これらについても継続した記録の積み重ねが必要です。長崎は19世紀中頃、シーボルトにより、日本の動植物をはじめて世界に発信した場所でもあります。日をおうごと、年を重ねて、記録の積み重ねの大切さを感じます。

長崎市鳥類目録2019年.12月31日現在

日本鳥類目録改定第7版の配列による

目	科	属		種・亜種	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥	備考
キジ目	キジ科	ウズラ属	1	ウズラ				○		1例
		ヤマドリ属	2	アカヤマドリ	○					
		キジ属	3	キュウシュウキジ	○					
カモ目	カモ科	マガン属	4	ヒシクイ			○			
		ツクシガモ属	5	ツクシガモ			○			
		オシドリ属	6	オシドリ			○			越夏例あり
		マガモ属	7	オカヨシガモ			○			
			8	ヨシガモ			○			
			9	ヒドリガモ			○			
			10	マガモ			○			
			11	カルガモ	○					
			12	ハシビロガモ			○			
			13	オナガガモ			○			
			14	シマアジ				○		
			15	トモエガモ			○			
			16	コガモ			○			
		アカハシハジロ属	17	アカハシハジロ					○	時津町中山ダムから飛来
		スズガモ属	18	ホシハジロ			○			
			19	キンクロハジロ			○			
			20	スズガモ			○			
			21	ホオジロガモ			○			
		ウミアイサ属	22	カワアイサ			○			
			23	ウミアイサ			○			
			24	カイツブリ	○					
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ属	25	カンムリカイツブリ			○			
			26	ハジロカイツブリ			○			
ハト目	ハト科	カワラバト属	27	カラスバト	○					樺島他離島
		キジバト属	28	キジバト	○					
			29	ベニバト					○	
		アオバト属	30	アオバト			○			
アビ目	アビ科	アビ属	31	アビ			○			
			32	オオハム			○			
			33	シロエリオオハム			○			
ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	オオミズナギドリ属	34	オオミズナギドリ				○		
		ハイロミズナギドリ属	35	ハシボソミズナギドリ				○		
		アナドリ属	36	アナドリ					○	2015.9.2三ツ瀬
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ属	37	コウノトリ				○		2例
カツオドリ目	ゲンカンドリ科	ゲンカンドリ属	38	コゲンカンドリ					○	2019.9.30
		カツオドリ属	39	アオツラカツオドリ					○	2019.7.31
	ウ科	ウ属	40	カツオドリ			○			ほぼ周年の記録あり
			41	ヒメウ			○			
			42	カワウ	○					
			43	ウミウ			○			
ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ属	44	ヨシゴイ				○		
			45	オオヨシゴイ				○		一例
		ミゾゴイ属	46	ミゾゴイ				○		
		ゴイサギ属	47	ゴイサギ	○					
		ササゴイ属	48	ササゴイ				○		
		アカガシラサギ属	49	アカガシラサギ				○		越冬例あり
		アマサギ属	50	アマサギ				○		
		アオサギ属	51	アオサギ	○					
			52	チュウダイサギ	○					
		コサギ属	53	チュウサギ	○					ほぼ周年
			54	コサギ	○					
			55	クロサギ	○					
			56	カラシラサギ				○		
	トキ科	ブロンズトキ属	57	ブロンズトキ					○	

		ヘラサギ属	58	クロツラヘラサギ				○		1例
ツル目	ツル科	ツル属	59	ソデグロツル					○	2016. 11. 24
			60	マナヅル				○		
			61	クロヅル				○		2016. 3. 28
			62	ナベヅル				○		
	クイナ科	クイナ属	63	クイナ			○			
		シロハラクイナ属	64	シロハラクイナ				○		
		ヒメクイナ属	65	ヒクイナ	○					
		バン属	66	バン	○					
		ツルクイナ属	67	ツルクイナ					○	2017. 10. 9
		オオバン属	68	オオバン			○			
カッコウ目	カッコウ科	バンケン属	69	バンケン					○	2017. 5. 13
		カンムリカッコウ属	70	カンムリカッコウ					○	2017. 5. 6
		ヒメカッコウ属	71	ヒメカッコウ					○	2017. 4. 8
		ジュウイチ属	72	オオジュウイチ					○	2016. 5. 5
			73	ジュウイチ				○		
		カッコウ属	74	ホトギス		○				
			75	セグロカッコウ				○		
			76	ツツドリ				○		
			77	カッコウ				○		
			78	ヨタカ				○		
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ属	78	ヨタカ				○		
アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ属	79	ハリオアマツバメ				○		
		アマツバメ属	80	アマツバメ				○		
			81	ヒメアマツバメ				○		
チドリ目	チドリ科	タゲリ属	82	タゲリ				○		
			83	ケリ				○		2例
		ムナグロ属	84	ムナグロ				○		
			85	ダイゼン				○		
		チドリ属	86	コチドリ		○				
			87	シロチドリ				○		
			88	メダイチドリ				○		
			89	オオチドリ				○		
			90	ミヤコドリ					○	2018. 10. 17
	ミヤコドリ科	ミヤコドリ族	90	ミヤコドリ					○	
	セイタカシギ科	セイタカシギ属	91	セイタカシギ				○		
	シギ科	ヤマシギ属	92	ヤマシギ			○			
		タシギ属	93	アオシギ			○			2例
			94	チュウジシギ				○		
			95	タシギ			○			
		オグロシギ属	96	オグロシギ				○		1例
		ダイシャクシギ属	97	コシャクシギ				○		
			98	チュウシャクシギ				○		
			99	ホウロクシギ				○		
			100	アカアシシギ				○		
		クサシギ属	101	コアオアシシギ				○		
			102	アオアシシギ				○		
			103	クサシギ				○		
			104	タカブシギ				○		
			105	キアシシギ				○		
		ソリハシシギ属	106	ソリハシシギ				○		
		イソシギ属	107	イソシギ	○					
		キョウジョシギ属	108	キョウジョシギ				○		
		オバシギ属	109	トウネン				○		
			110	オジロトウネン				○		
			111	ヒバリシギ				○		
			112	ウズラシギ				○		
			113	ハマシギ				○		
			114	エリマキシギ				○		
		ヒレアシシギ属	115	アカエリヒレアシシギ				○		
			116	ハイイロヒレアシシギ				○		

	レンカク科	レンカク属	117	レンカク					○	1例
	ツバメチドリ科	ツバメチドリ属	118	ツバメチドリ				○		
	カモメ科	ミツユビカモメ属	119	ミツユビカモメ			○			
		カモメ属	120	ユリカモメ			○			
			121	ズグロカモメ			○			
			122	ウミネコ	○					
			123	シロカモメ			○			1例
			124	セグロカモメ			○			
			125	キアシセグロカモメ			○			
			126	オオセグロカモメ			○			
			127	ホイグリンカモメ			○			
			128	ニシセグロカモメ			○			
		アジサシ属	129	オニアジサシ				○		2019.7.5
			130	ベニアジサシ				○		
			131	アジサシ				○		
		クロハラアジサシ属	132	クロハラアジサシ				○		
			133	ハジロクロハラアジサシ				○		
		トウゾクカモメ属	134	トウゾクカモメ					○	
	ウミスズメ科	ウミスズメ属	135	ウミスズメ			○			2例
			136	カンムリウミスズメ			○			
		ウトウ属	137	ウトウ			○			1例
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ属	138	ミサゴ	○					
	タカ科	ハチクマ属	139	ハチクマ				○		
		トビ属	140	トビ	○					
		オジロワシ属	141	オオワシ					○	1986年1月の古い記録
		チュウヒ属	142	ハイロチュウヒ				○		
		ハイタカ属	143	アカハラダカ				○		
			144	ツミ				○		
			145	ハイタカ			○			
			146	オオタカ			○			
		サシバ属	147	サシバ				○		
		ノスリ属	148	ノスリ			○			
フクロウ目	フクロウ科	コノハズク属	149	コノハズク				○		
		フクロウ属	150	キュウシュウフクロウ	○					
			151	アオバズク		○				
		トラフズク属	152	コミミズク				○		1例
サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ属	153	ヤツガシラ				○		冬季の記録アリ
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン属	154	アカショウビン		○				
			155	ヤマショウビン				○		
		カワセミ属	156	カワセミ	○					
		ヤマセミ属	157	ヤマセミ				○		
	ブッポウソウ科	ブッポウソウ属	158	ブッポウソウ				○		
キツツキ目	キツツキ科	アリスイ属	159	アリスイ			○			
		アカゲラ属	160	キュウシュウコゲラ	○					
		アオゲラ属	161	カゴシマアオゲラ	○					
ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ属	162	ヒメチョウゲンボウ					○	
			163	チョウゲンボウ			○			
			164	アカアシチョウゲンボウ				○		2例
			165	チゴハヤブサ				○		
			166	ハヤブサ	○					
非スズメ目 20目	33科	93属	166		24	4	48	72	18	166
スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ属	167	ヤイロチョウ		○				
	サンショウクイ科	サンショウクイ属	168	サンショウクイ				○		
			169	リュウキュウサンショウクイ	○					近年長崎市に進出している
	コウライウグイス科	コウライウグイス属	170	コウライウグイス				○		
	オウチュウ科	オウチュウ属	171	オウチュウ				○		
			172	ハイロオウチュウ				○		
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ属	173	サンコウチョウ		○				
	モズ科	モズ属	174	チゴモズ				○		

		175	モズ	○					
		176	シマアカモズ				○		
		177	アカモズ				○		
		178	タカサゴモズ					○	2017. 9. 30
		179	カラアカモズ				○		
カラス科	カケス属	180	カケス	○					
	カササギ属	181	カササギ	○					稀
	カラス属	182	ミヤマガラス			○			
		183	ハシボソガラス	○					
		184	ハシブトガラス	○					
キクイタダキ科	キクイタダキ属	185	キクイタダキ			○			
ツリスガラ科	ツリスガラ属	186	ツリスガラ			○			
シジュウカラ科	コガラ属	187	ヤマガラ	○					
	ヒガラ属	188	ヒガラ					○	
		189	キバラガラ					○	2018. 3. 14川原大池
	シジュウカラ属	190	シジュウカラ	○					
ヒバリ科	ヒメコウテンシ属	191	ヒメコウテンシ				○		
	ヒバリ属	192	ヒバリ	○					神ノ島では唯一留鳥
ツバメ科	ショウドウツバメ属	193	ショウドウツバメ				○		
	ツバメ属	194	アカハラツバメ				○		
		195	ツバメ		○				
		196	コシアカツバメ		○				
	イワツバメ属	197	イワツバメ	○					
ヒヨドリ科	シロガシラ属	198	シロガシラ					○	
	ヒヨドリ属	199	ヒヨドリ	○					
ウグイス科	ウグイス属	200	チョウセンウグイス					○	
		201	ウグイス	○					
	ヤブサメ属	202	ヤブサメ	○					
エナガ科	エナガ属	203	キュウシュウエナガ	○					
ムシクイ科	ムシクイ属	204	チフチャフ					○	2017. 5. 3
		205	ムジセッカ				○		
		206	カラフトムジセッカ					○	
		207	カラフトムシクイ					○	
		208	キマユムシクイ				○		
		209	コムシクイ				○		
		210	オオムシクイ				○		
		211	メボソムシクイ				○		
		212	エゾムシクイ				○		
		213	アムールムシクイ				○		
		214	センダイムシクイ				○		
		215	イイジマムシクイ					○	2019. 4. 8
メジロ科	メジロ属	216	メジロ	○					
		217	チョウセンメジロ					○	2016. 10. 15
センニュウ	センニュウ属	218	マキノセンニュウ				○		
		219	シマセンニュウ				○		
		220	ウチヤマセンニュウ		○				
		221	エゾセンニュウ				○		
ヨシキリ科	ヨシキリ属	222	オオヨシキリ				○		
		223	コヨシキリ				○		
		224	ハシブトオオヨシキリ					○	
セッカ科	セッカ属	225	セッカ	○					
レンジャク科	レンジャク属	226	キレンジャク			○			1例
		227	ヒレンジャク			○			
ミソサザイ科	ミソサザイ属	228	ミソサザイ			○			
ムクドリ科	ムクドリ属	229	ギンムクドリ				○		冬季の記録あり
		230	ムクドリ	○					
	コムクドリ属	231	コムクドリ				○		
	カラムクドリ属	232	カラムクドリ				○		不定期な渡来あり
	バライロムクドリ属	233	バライロムクドリ					○	2019. 5. 15

	ホシムクドリ属	234	ホシムクドリ				○		
カワガラス科	カワガラス属	235	カワガラス	○					周年の記録無し
ヒタキ科	トラツグミ属	236	マミジロ				○		
		237	トラツグミ			○			
	ツグミ属	238	カラアカハラ				○		
		239	クロツグミ				○		
		240	クロウタドリ				○		
		241	マミチャジナイ				○		稀に越冬個体あり
		242	シロハラ			○			
		243	アカハラ				○		主に旅鳥
		244	ノアカツグミ					○	
		245	ツグミ			○			
		246	ハチジョウツグミ			○			
	ノゴマ属	247	コマドリ				○		冬季の記録あり
		248	アカヒゲ					○	
		249	オガワコマドリ					○	2016.4.9
		250	ノゴマ				○		
		251	コルリ				○		
		252	シマゴマ				○		冬季の記録あり
	ルリビタキ属	253	ルリビタキ			○			
	ジョウビタキ属	254	クロジョウビタキ					○	2010.4長崎県初記録
		255	ジョウビタキ			○			
	カワビタキ族	256	カワビタキ					○	2018. 10.31
	ノビタキ属	257	ノビタキ				○		
		258	ヤマザキヒタキ					○	2017. 4. 29
	サバクヒタキ族	259	イナバヒタキ					○	2019. 4. 25
	イソヒヨドリ属	260	イソヒヨドリ	○					
		261	ヒメイソヒヨ					○	2019. 5. 22
	サメビタキ属	262	エゾビタキ				○		
		263	サメビタキ				○		
		264	コサメビタキ				○		
		265	ミヤマヒタキ				○		
	キビタキ属	266	マミジロキビタキ				○		
		267	キビタキ				○		
		268	リュウキュウキビタキ					○	
		269	ムギマキ				○		
		270	オジロビタキ				○		2016. 5. 11
		271	ニシオジロビタキ			○			
	オオルリ属	272	オオルリ		○				
	アイイロヒタキ属	273	ロクショウヒタキ					○	2019. 11. 12
イワヒバリ科	カヤクグリ属	274	カヤクグリ			○			
スズメ科	スズメ属	275	ニューナイスズメ				○		
		276	スズメ	○					
セキレイ科	イワミセキレイ属	277	イワミセキレイ				○		
	セキレイ属	278	シベリアツメナガセキレイ				○		
		279	キタツメナガセキレイ				○		
		280	マミジロツメナガセキレイ				○		
		281	ロシアツメナガセキレイ					○	日本初記録 2014. 5. 4
		282	ツメナガセキレイ				○		
		283	キガシラセキレイ				○		
		284	キセキレイ	○					
		285	ニシシベリアハクセキレイ				○		2018. 03. 28
		286	シベリアハクセキレイ				○		
		287	台湾ハクセキレイ				○		
		288	ハクセキレイ				○		
		289	ホオジロハクセキレイ				○		
		290	ペルシャハクセキレイ					○	日本初記録 2012. 4. 2
	タヒバリ属	291	セグロセキレイ	○					
		292	マミジロタヒバリ				○		

			293	ヨーロッパビンズイ				○		
			294	ビンズイ			○			
			295	ムネアカタヒバリ				○		
			296	タヒバリ			○			
	アトリ科	アトリ属	297	アトリ			○			
		カワラヒワ属	298	オオカワラヒワ			○			
			299	カワラヒワ	○					
		マヒワ属	300	マヒワ			○			
		ハギマシコ属	301	ハギマシコ			○			
		ベニマシコ属	302	ベニマシコ			○			
		オオマシコ属	303	アカマシコ				○		
		イスカ属	304	イスカ					○	
		ウソ属	305	アカウソ			○			
			306	ウソ			○			
		シメ属	307	シメ			○			
		イカル属	308	コイカル				○		
			309	イカル			○			
	ホオジロ科	ホオジロ属	310	シラガホオジロ					○	2019. 10. 31
			311	ホオジロ	○					
			312	シロハラホオジロ				○		
			313	ホオアカ			○			
			314	コホオアカ				○		
			315	キマユホオジロ				○		
			316	カシラダカ			○			
			317	ミヤマホオジロ			○			
			318	シマアオジ				○		
			319	シマノジコ				○		
			320	ズグロチャキンチョウ				○		
			321	ノジコ				○		
			322	シベリアアオジ				○		
			323	アオジ			○			
			324	クロジ			○			
			325	シベリアジュリン				○		
			326	コジュリン					○	2018. 10. 30
			327	オオジュリン			○			
		ミヤマシンド族	328	キガシラシンド					○	2019. 5. 5
		サバンナシンド属	329	サバンナシンド					○	2016. 4. 19
スズメ目	29科	68属	163		24	6	31	73	29	163
合計21目	62科	160属	329種		48	10	79	145	47	329
長崎市%					14.6%	3.0%	24.0%	44.1%	14.3%	
全国					21.5%	13.7%	23.9%	18.2%	22.8%	

外来種

目	科	属	No	種・亜種	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥	備考
キジ目	キジ科	コジュケイ属	1	コジュケイ	○					
カモ目	カモ科	ハクチョウ属	2	コブハクチョウ	○					
ハト目	ハト科	カワラバト属	3	カワラバト(ドバト)	○					
スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ属	4	ガビチョウ				○		
		ソウシチョウ属	5	ソウシチョウ				○		
	ムクドリ科	ハッカチョウ族	6	ハッカチョウ					○	
			7	インドハッカ					○	

7種

検討種

目	科	属	No	種・亜種	留鳥	夏鳥	冬鳥	旅鳥	迷鳥	備考
チドリ目	カモメ科	カモメ属	1	モンゴルカモメ			○			2017.3.12
スズメ目	ムシクイ科	ムシクイ属	2	モウコムジセッカ				○		2011.2.20
	ヒタキ科	キビタキ属	3	キムネビタキ				○		2016.4.29

3種